

研究課題番号	1G-2101
研究課題名	セルロースナノファイバー補強によるバイオマスプラスチック用途拡大の推進
研究実施期間	令和3年度～令和5年度
研究機関名	京都大学
研究代表者名	矢野 浩之

1. 委員の指摘及び提言概要

研究の背景・目的・ポイントも明確で、概ね計画通りであり、一部早く得られた結果もある。新素材によって強度が増し、低熱膨張性を有し、温暖化ガスの大幅削減とその狙いは素晴らしく、企業との連携も進められ、社会実装への目標に近づいている。しかし、海洋分解性プラスチックの分解性の評価がほとんど進んでいない点は、懸念がある。学会等への成果報告がほとんどなされていない。研究目標である「コスト/パフォーマンスの壁をクリアして…」という点について、定量的な説明がなく、どの程度目標に近づけるのか不明である。従来のプラスチック製造と比べて、コストはどれくらいになるのか、排出CO₂の削減の効果を定量的に示してほしい。

2. 採点結果

評価ランク：A